

沿岸漁海況調査（昭和51年度）

山本達雄・野沢正俊・西田輝己

本県沿岸の海況及び漁況の変化・変動を把握するため、沿岸海洋観測（4～11月）並びに漁獲量調査（周年）を実施したので報告する。

調 査 方 法

1 海況調査

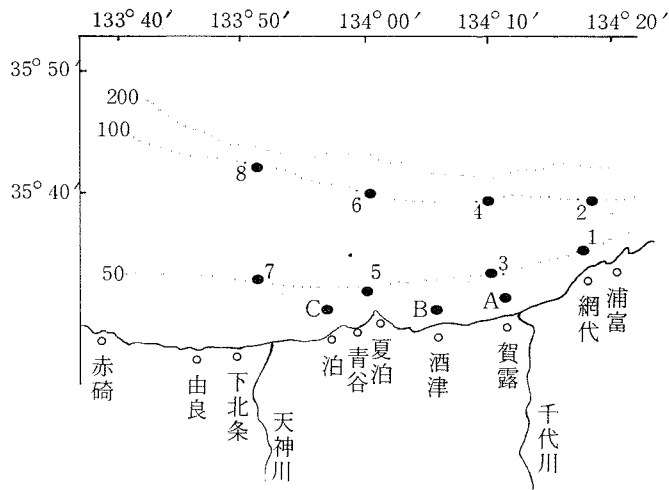
- (1) 調査船 第2鳥取丸（FRP 17.84 吨、D 160 馬力、10.5 ノット）
- (2) 観測定点 図1
- (3) 調査項目
気象：天候、気温、風向、風力
海象：水温、塩分、ウネリ、透明度、潮目、波向、波浪
- (4) 実施概要 表1

2 漁況調査

県内の網代（東部）、泊（中部）、赤碓（西部）の3漁業協同組合に水揚げされる毎日の漁業別・魚種別漁獲量を収集し資料とした。

表1 海洋観測実施概要

調査年月日	調査船	測点数	欠測定数	備考
昭和51年4月5日・8日	第2鳥取丸	11	0	
5月10日・11日	〃	11	0	
6月1日・2日	〃	11	0	
7月9日・12日	〃	11	0	
8月5日・9日	〃	11	0	
9月6日・7日	〃	11	0	
10月18日	〃	8	3	
11月2日・18日	〃	8	3	



定点 N・E	1	2	3	4	5	6	7	8	A	B	C
N	35°36′	35°40′	35°35′	35°39′	35°34′	35°40′	35°34′	35°41′	35°33′	35°32′	35°31′
E	134°17′	134°17′	134°10′	134°10′	134°00′	134°00′	133°52′	133°52′	134°11′	134°05′	133°56′

図1 海洋観測定点

調査結果

1. 海況^{*}(図2～4)

特徴：水温は5・6月を除いた月の各層(0、50、100 m層)は昨年及び平年(1964～1975年)に比べて低めに推移した。また、5月及び7月に青谷沖に低温水がみられた。塩分は8～9月に水深30～50 mに、10月に水深50～100 mに、11月に水深75～100 mに躍層がみられた。

推移

4月：水温は0 m層は11.5～12.4℃、50 m層は11.48～12.22℃、100 m層は11.38～11.72℃で100 m層まで温度差がほとんど見られない。3月上旬に比べると各層とも0.5℃前後高めになっている。昨年同期と比べると0 m層は1～2℃低めである。また、平年と比べると各層とも“平年並み”か“やや低め”である。

塩分は0 m層が33.80～34.37‰、50 m層が34.28～34.42‰、100 m層が34.28～34.35‰である。透明度は9～12 mである。

5月：水温は0 m層が15.9～16.9℃、50 m層が14.35～14.85℃、100 m層が10.90～14.60℃である。4月上旬に比べ、0 m層は4.5℃、50 m層は2.5～3.0℃、100 m層は青谷沖(st.6)を除いて2～3℃高めである。昨年同期と比べると各層とも0.5～1.0℃高めで、平年と比べると各層とも“平

* 4～11月の海洋観測結果は昭和51・52年度鳥取水試資料Aに掲載

年並み”である。青谷沖には低温水がみられる。

塩分は0 m層は賀露沖 (st.3、33.79%) を除いて 34.27 ~ 34.54 %、50 m層が 34.38 ~ 34.53 %、100 m層が 34.23 ~ 34.52 %である。

透明度は5 ~ 15 mで、ほとんどが10 m以下である。

6月：水温は0 m層が 18.6 ~ 19.9 °C、50 m層が 16.27 ~ 16.92 °C、100 m層が 15.81 ~ 16.27 °Cである。5月中旬に比べ、0 m層が2.0 ~ 3.0 °C、50 m層が1.5 ~ 2.0 °C、100 m層が1.5 ~ 5.0 °C高くなっている。昨年同期と比べると0 m層は1.0 °C低め、50 m及び100 m層は1.0 °C高めであり、平年と比べると各層とも“平年並み”である。

塩分は0 m層が 32.67 ~ 34.27 %、50 m層が 34.38 ~ 34.53 %、100 m層が 34.46 ~ 34.52 %で、0 m層は陸水の影響が及んでいたようである。

透明度は8 ~ 20 mである。

7月：水温は0 m層が 21.6 ~ 22.8 °C、50 m層が 17.27 ~ 18.93 °C、100 m層が 13.99 ~ 16.96 °Cである。6月上旬に比べ、0 m層は3 °C前後、50 m層は1.0 ~ 2.0 °C高めである。100 m層は東部 (st.2.4) は0.2 ~ 1.0 °C高めであるが、西部 (st.6、8) は1.8 °C低めである。昨年同期と比べると0 m層は1.5 °C前後、50 m層は1.0 ~ 3.0 °C、100 m層は1.0 ~ 2.0 °C低めとなっている。平年と比べると0 m層は“平年並み”か“やや低め”、50 m層は“やや低め”、100 m層は東部は“平年並み”、西部は“やや低め”である。また、青谷沖 (st.6) に低温水が出現している。

塩分は0 m層が 32.63 ~ 34.03 %、50 m層が 34.31 ~ 34.43 %、100 m層が 34.49 ~ 34.57 %である。

透明度は17 ~ 26 mで、ほとんどが20 m以上である。

8月：水温は0 m層が 24.9 ~ 26.4 °C、50 m層が 19.11 ~ 23.02 °C、100 m層が 14.16 ~ 18.24 °Cとなっている。7月上旬に比べ0 m層は3.0 ~ 4.0 °C、50 m層は1.0 ~ 4.5 °C高め、100 m層は賀露沖 (st.4、1.7 °C低め) を除いて1 °C前後高めである。昨年同期と比べると0 m層は2.0 ~ 3.0 °C、50 m層1.0 ~ 3.0 °C低めである。100 m層は、西部は3.5 ~ 5.0 °C低めであるが、東部は0.5 ~ 4.0 °C高めである。平年と比べると各層とも“やや低め”か“かなり低め”となっている。

塩分は0 m層が 32.90 ~ 33.55 %、50 m層が 33.64 ~ 34.09 %、100 m層が 34.19 ~ 34.49 %で、0 m層は例年どおり低かん水でおおわれつつある。

透明度は13 ~ 27 mとかなり定点差がみられる。

9月：水温は0 m層が 25.0 ~ 26.2 °C、50 m層が 20.38 ~ 22.80 °C、100 m層が 15.62 ~ 17.21 °Cとなっている。8月上旬に比べ、0 m層は高くなっている定点と低くなっている定点が、ほぼ半々である。50 m層は賀露沖 (st.3) が1.0 °C低くなっているのを除いて、0.5 ~ 3.5 °C高めに、100 m層は網代沖 (st.2) が2.5 °C低くなっているのを除いて0.5 ~ 2.5 °C高くなっている。昨年同期と比べると0 m層は2 °C前後、50 m層は1.0 ~ 2.0 °C、100 m層は1.0 ~ 4.0 °C低めとなっている。

平年と比べると0 m層は“平年並み”、50 m層は“平年並み”か“やや低め”、100 m層は“やや低め”である。

塩分は0 m層が 32.00 ~ 32.68 %、50 m層が 33.34 ~ 33.89 %、100 m層が 34.24 ~ 34.38 %であり、水深30 ~ 50 mに塩分躍層がみられる。

透明度は21 ~ 31 mと高くなっている。

10月：水温は0 m層が 20.5 ~ 21.6 °C、50 m層が 20.80 ~ 21.21 °C、100 m層が 15.87 ~ 16.55 °C

となり、0 m から 50~75 m まではほとんど水温差がみられなくなっている。9 月上旬に比べ 0 m 層は 4.0 ~ 5.5 °C 低めであるが、50 m 層は st. 2、4、7 が 0.3~0.7 °C 高めに、st. 3、5、6、8 が 0.7~1.6 °C 低めとなっている。100 m 層は st. 2 が高め、st. 8 が低めであるが、st. 4、6 は前月とほぼ同じである。昨年同期と比べると 0 m 層は 3.0~5.0 °C 低めに、50 m 層は st. 3、8 を除いて 1.0~2.5 °C 低めに、下層はほぼ昨年並みである。平年と比べると 0 m 層は“かなり低め” 50 m 及び 100 m 層は“平年並み”となっている。

塩分は 0 m 層が 32.29 ~ 32.92 ‰、50 m 層が 32.88 ~ 33.36 ‰、100 m 層が 34.09 ~ 34.23 ‰で、水深 75~100 m に塩分躍層がみられる。

透明度は 11~26 m と定点差がかなり大きいようである。

海洋の鉛直混合が進行しているようである。

11 月：水温は 0 m 層が 19.5 ~ 21.3 °C、50 m 層が 19.27 ~ 20.19 °C、100 m 層が 15.93 ~ 17.65 °C となり、10 月中旬同様水深 75 m までは水温差がほとんどみられない。なお、今月は過去の観測資料が少ないため平年比較ができなかった。

塩分は 0 m 層が 32.58 ~ 32.97 ‰、50 m 層が 32.72 ~ 33.21 ‰、100 m 層が 33.93 ~ 34.13 ‰で、水深 75~100 m に塩分躍層がみられる。

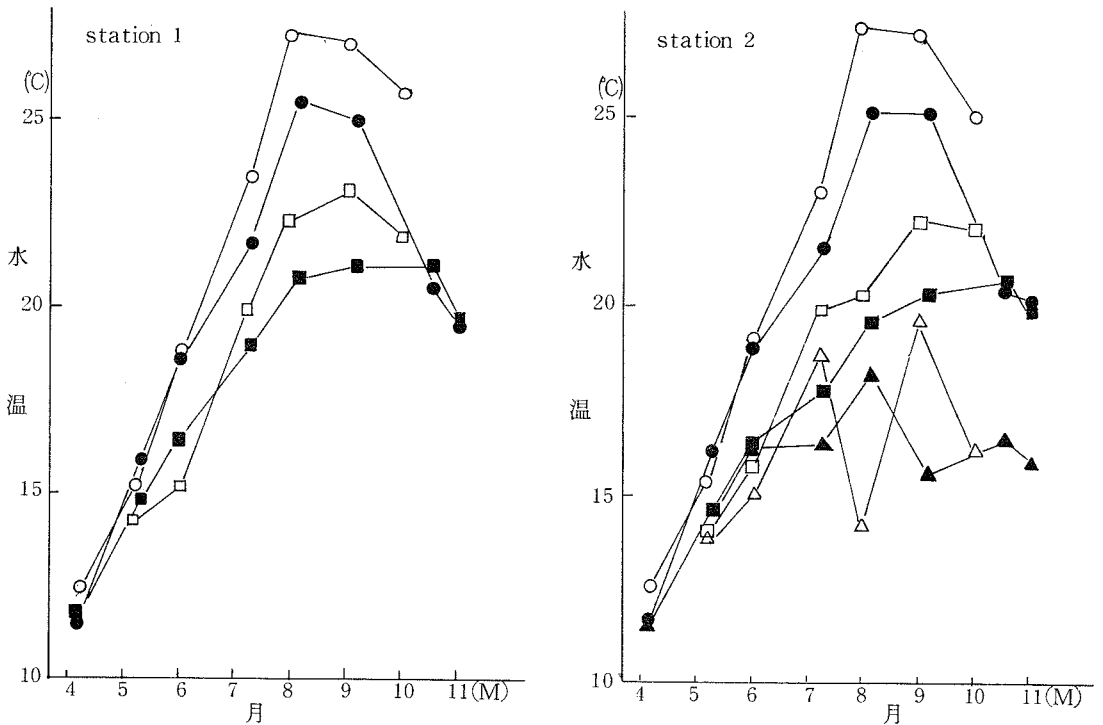


図2 水温経月変化

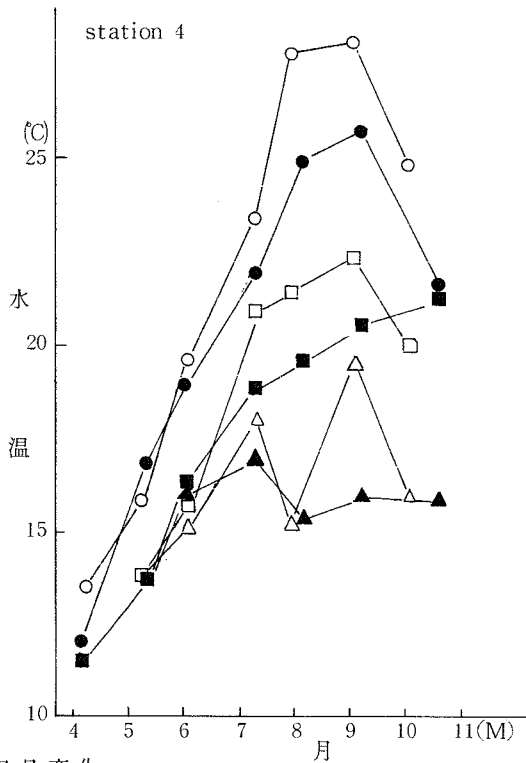
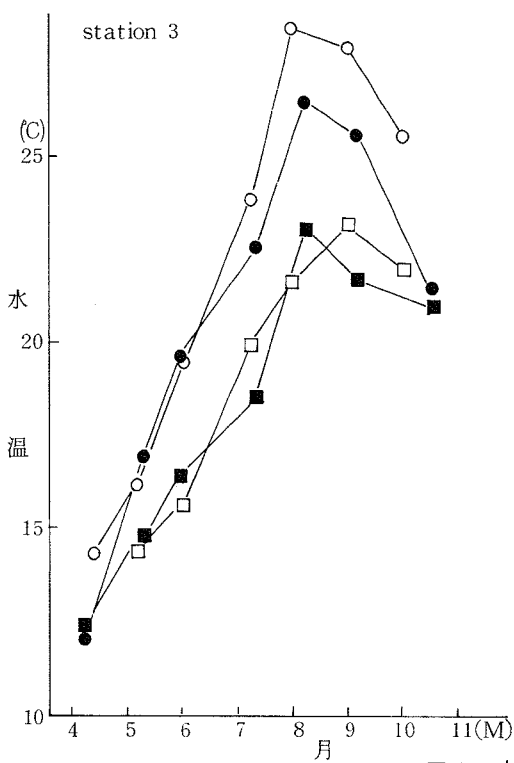


図2 水温経月変化

注) ●○水深 0 m ■□水深 50 m ▲△水深 100 m
 ●■▲昭和 51 年 ○□△昭和 50 年

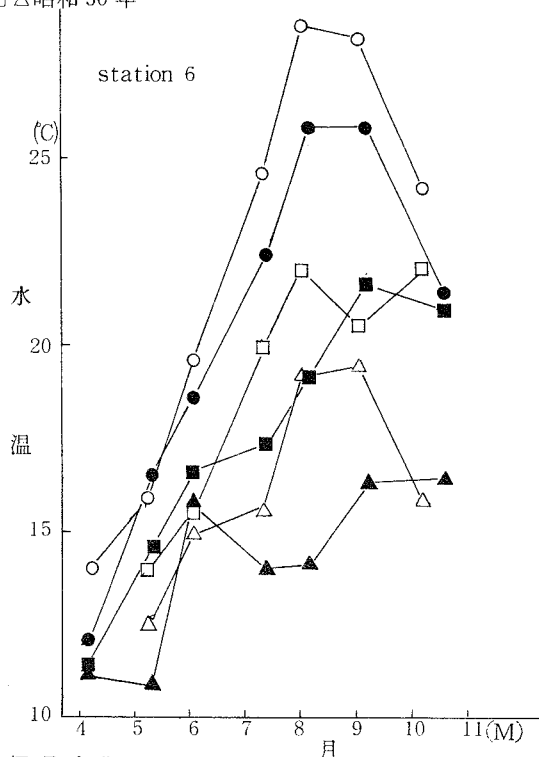
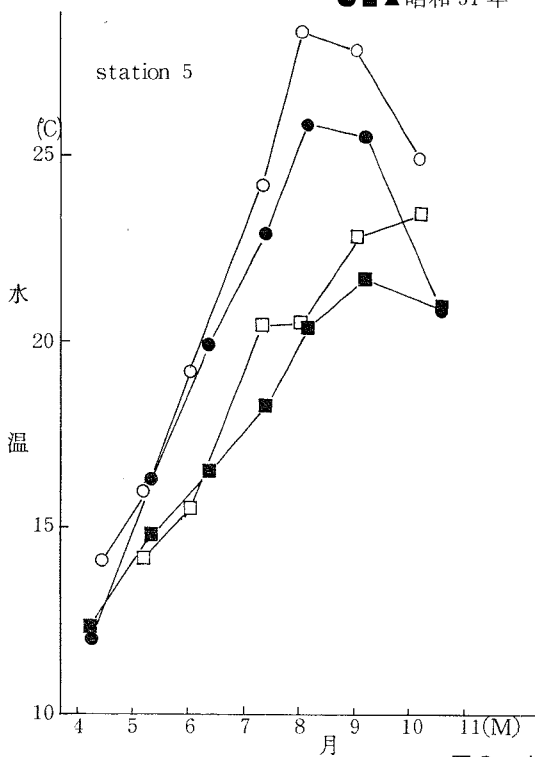


図3 水温経月変化

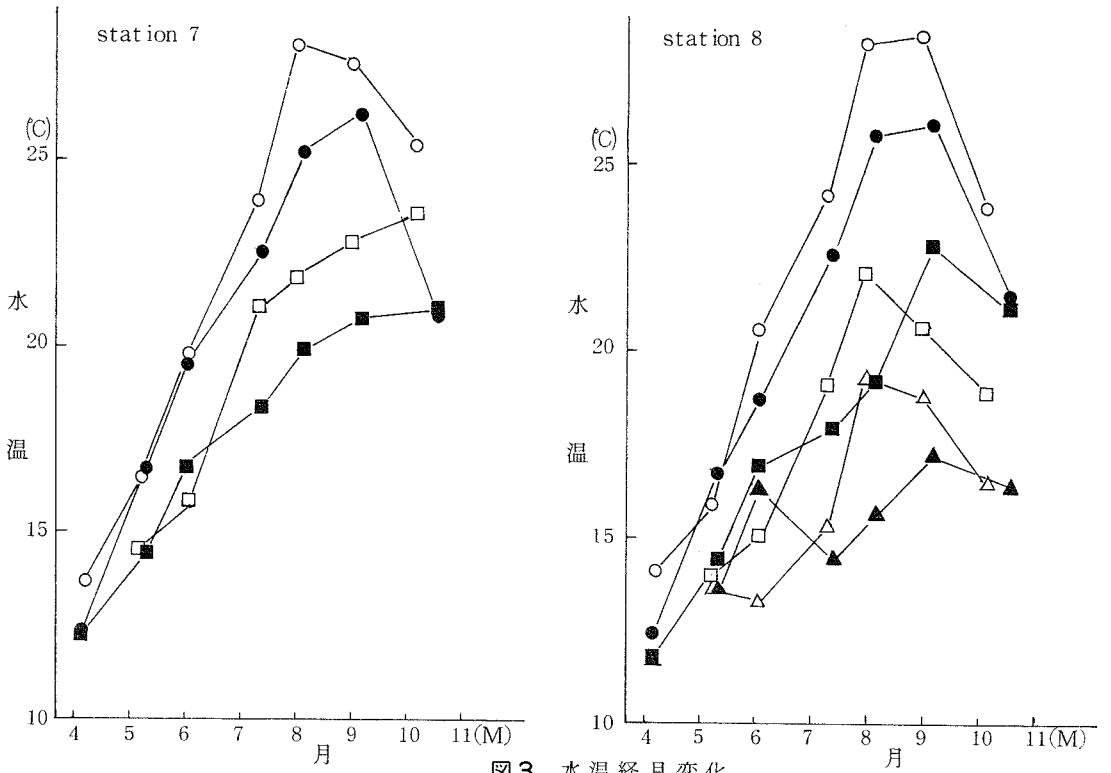


図3 水温経月変化

注) ●○水深 0 m ■□水深 50 m ▲△水深 100 m
 ●■▲昭和 51 年 ○□△昭和 50 年

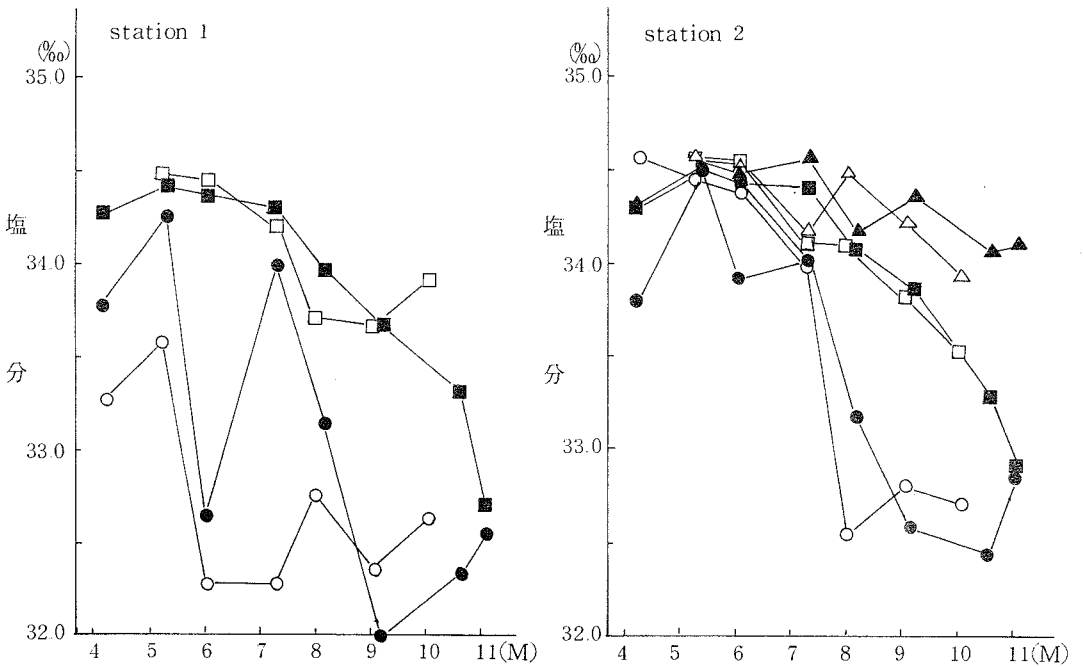


図4 塩分経月変化

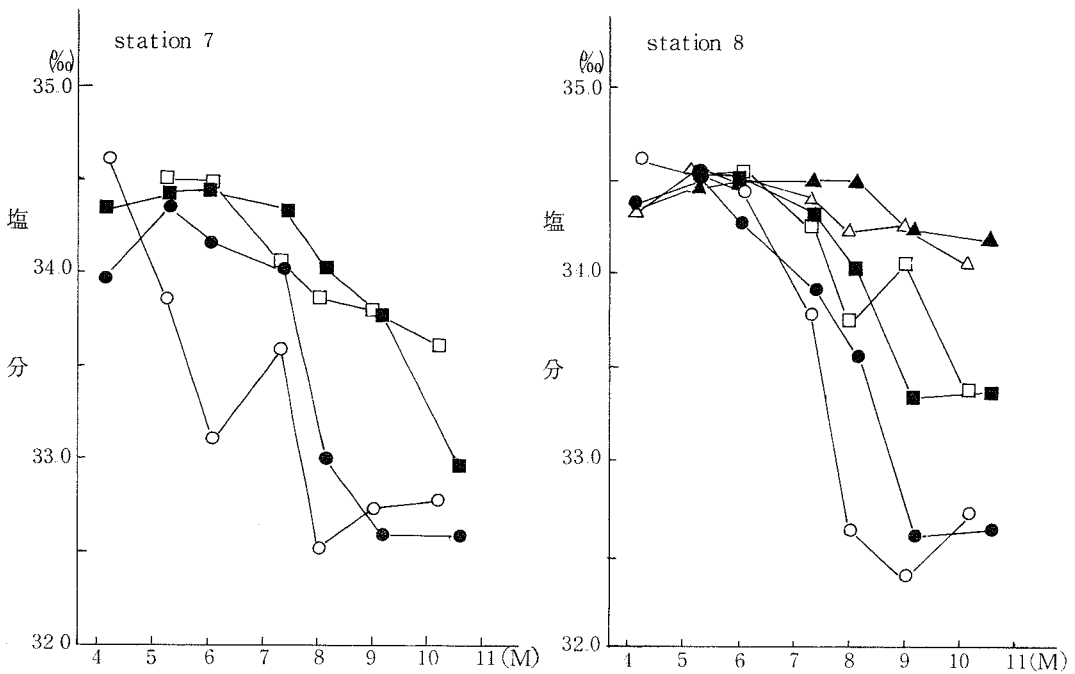


図4 塩分経月変化

注) ●○水深 0 m ■□水深 50 m ▲△水深 100 m
●■▲昭和 51 年 ○□△昭和 50 年

2 漁 況 (図 5 ~ 9、表 2)

特徴: スルメイカ (沿岸) は春先に豊漁となり、その後も好漁に推移した。ソデイカは全く漁獲がみられなかった。また、夏枯れ期にケンサキ・ブドウイカ (以後シロイカという)、シイラが比較的好漁を示した。全体的にはスルメイカ (沿岸)、シロイカ、トビウオ以外は低調な漁況となっている。

推移

4月: スルメイカ (以後沿岸 1 本釣のもの) の 1 隻当り漁獲量は網代が 520 ~ 982 kg、泊が 26 kg、赤碕が 188 ~ 239 kg である。網代は昨年同月に比べ 2 ~ 3 倍の漁獲量増加となっている。泊及び赤碕は底刺網及び 1 本釣による底生魚主体の漁況で、それらの 1 隻当り漁獲量をみると、タイ が赤碕で 10 ~ 16 kg、泊で 4 ~ 12 kg、ヒラメ は赤碕で 8 ~ 9 kg、泊で 2 ~ 4 kg、メバル (延縄) は赤碕で 19 ~ 21 kg、泊で 31 ~ 45 kg である。

5月: スルメイカ の 1 隻当り漁獲量は、網代が 161 ~ 312 kg と前月に比べ漁獲量が減少したが昨年並みに、泊は 4 ~ 26 kg、赤碕は 34 ~ 127 kg で推移している。シロイカ は、赤碕が昨年より 1 ヶ月早く、泊が 1 旬早く中旬に初漁があり、網代は昨年同様下旬に初漁があった。1 隻当り漁獲量は、赤碕が 6 ~ 23 kg、泊が 3 ~ 4 kg、網代が 3 kg である。トビウオ は赤碕及び泊で昨年より 1 旬早く中旬に初漁がみられ、1 隻当り漁獲量は、赤碕が 81 ~ 175 kg、泊が 86 ~ 102 kg である。

6月: スルメイカ の 1 隻当り漁獲量は、網代が 90 ~ 121 kg、泊が 9 ~ 17 kg となっている。シロイカ は

各地区とも低調で、1隻当り漁獲量は、網代・泊が1～3kg、赤碕が7～15kgである。トビウオは盛漁期に入り各地区とも漁獲量の増加がみられ、1隻当り漁獲量は泊が320～623kg、赤碕が564～1,959kgと昨年同月の約15倍の漁獲量である。シイラは昨年より1旬早く下旬から漁獲がみられたが、各地区の1隻当り漁獲量は42～263kgと少い。小型底曳網によるメイタガレイの1隻当り漁獲量は、泊が31～42kg、赤碕が43～49kgで昨年同月の約60%の漁獲量である。また、泊で下旬にイカヤガイが1隻当り5kgの漁獲量がみられた。

7月：スルメイカは、網代で1隻当り漁獲量が47～112kgと漸減傾向であるが、昭和40年以降では同月の最高漁獲量を示している。また、泊では4～10kg、赤碕では18～35kgの1隻当り漁獲量である。シロイカは低調に推移し、1隻当り漁獲量は網代・泊が1～3kg、赤碕が12～16kgと昨年同月の $\frac{1}{2}$ 以下の漁獲量である。トビウオは終漁期となり漁獲量は減少し、1隻当り漁獲量は泊が51～258kg、赤碕が582～1,091kgである。漁期中の総漁獲量は、泊が53,742kg（昨年比158%）、赤碕が211,701kg（同比162%）となっている（表2）。シイラの1隻当り漁獲量は、網代が161～495kg、泊が29～102kgで、赤碕が49～211kgで、網代は昨年並みであるが、泊及び赤碕は昨年同期の $\frac{1}{3}$ の漁獲量である。メイタガレイの1隻当り漁獲量は、泊が5～13kg、赤碕が36～44kgで両地区とも昨年同月の $\frac{1}{2}$ 以下の漁獲量である。イタヤガイは泊で1隻当り2～15kgの漁獲量がみられる。

8月：スルメイカは網代が1隻当り55～65kgの漁獲量を示し、泊及び赤碕はシロイカ漁主体になったため、前月より大幅に漁獲量が減少している。低調に推移していたシロイカは今月に入り漁獲の増加がみられ、1隻当り漁獲量は、赤碕が28～32kg、泊が6～10kg、網代が6～30kgとなっている。シイラは中旬ごろから漁獲が増加し、1隻当り漁獲量は、網代が177～437kg、泊が57～291kg、赤碕が149～533kgで昨年同期を若干上回る漁獲量となる。メイタガレイの1隻当り漁獲量は、泊が5～13kg、赤碕が12～18kgである。

9月：スルメイカは再び好漁となり、網代の1隻当り漁獲量は70～167kgである。シロイカは前月に続いて好漁を示し、1隻当り漁獲量は、赤碕が23～33kg、泊が8～14kg、網代が7～20kgである。シイラの1隻当り漁獲量は、赤碕が191～363kg、泊が108～210kg、網代が113～1,096kgである。下旬ごろからハマチが漁獲され、1隻当り漁獲量は赤碕が65～134kg、泊で1～64kgである。

10月：スルメイカは網代で1隻当り38～99kgの漁獲量である。シロイカの1隻当り漁獲量は、赤碕が23～31kg、泊が6～11kg、網代が4～28kgと減少傾向を示す。シイラは各地区とも終漁し、漁期中の総漁獲量は、網代が16,953kg（昨年比59%）、泊が23,185kg（同比63%）、赤碕が53,537kg（同比41%）と低調な漁況であった（表2）。ハマチは狩刺網、底刺網で漁獲され、1隻当り漁獲量は、赤碕が38～107kg、泊が4～72kgである。

11月：スルメイカは網代で1隻当り90～101kgの漁獲量である。シロイカは、泊及び赤碕で中旬あたりで漁獲されなくなり、漁期中の総漁獲量は、網代が26,652kg（昨年比188%）、泊が20,687kg（同比266%）、赤碕が76,806kg（同比171%）と昨年を上回る漁獲量となる（表2）。ハマチの1隻当り漁獲量は、赤碕が111～438kg、泊が0～44kgである。ソデイカは全く漁獲がみられなかった。また、ヨコワは今月に入り少し漁獲がみられたが低調な漁況である。

12月：スルメイカの1隻当り漁獲量は、網代が20～86kgである。ハマチの1隻当り漁獲量は、赤碕が25kg、泊が2～12kgである。9月以降のハマチの総漁獲量は、赤碕が25,636kg（昨年比20%）、泊が8,808kg（同比12%）と大幅な漁獲減となっている（表2）。

1月：スルメイカは網代で1隻当り68～181kgの漁獲量である。ヤリイカは網代で1隻当り3～85kgの漁獲量である。泊及び赤碕は底生魚主体の漁況となり、それらの1隻当り漁獲量をみると、ヒラメは赤碕で21～23kg、メバルは赤碕で25～37kg、泊で15kg、タイは赤碕で16～40kg、泊で25～32kgとなっている。

2月：網代はスルメイカ、泊及び赤碕はタイ・メバル等主体の漁況である。網代はスルメイカが1隻当り88～183kgの漁獲量である。タイは1隻当り漁獲量が泊で6～8kg、赤碕で45～63kgとなっている。

3月：2月とほぼ同様の漁況を示し、スルメイカは網代で1隻当り漁獲量が64～150kg、タイの1隻当り漁獲量は、赤碕が7～24kg、泊が4～8kg、メバルの1隻当り漁獲量は、赤碕が36～55kg、泊が14～43kgである。

表2 主な魚種の各地区の漁獲量

(単位：kg)

魚種	年度 漁獲量	昭和51年度		昭和50年度		昭和49年度	
		総漁獲量	1隻当り漁獲量	総漁獲量	1隻当り漁獲量	総漁獲量	1隻当り漁獲量
スルメイカ(沿岸)	網代	612,672	147	412,610	140	346,803	99
	赤碕	26,652	12	14,184	9	41,820	14
ケンサキ・ブドウイカ	泊	20,687	8	7,782	7	12,264	8
	赤碕	76,806	28	44,850	24	72,522	29
シイラ	網代	16,953	423	28,510	361	50,070	849
	泊	23,185	122	38,677	187	34,661	200
	赤碕	53,537	283	130,572	520	191,945	756
トビウオ	泊	53,742	333	34,057	226	50,773	391
	赤碕	211,701	878	130,559	619	158,489	880
ハマチ	泊	8,801	15	75,145	125	25,558	65
	赤碕	25,636	109	131,420	267	39,696	144

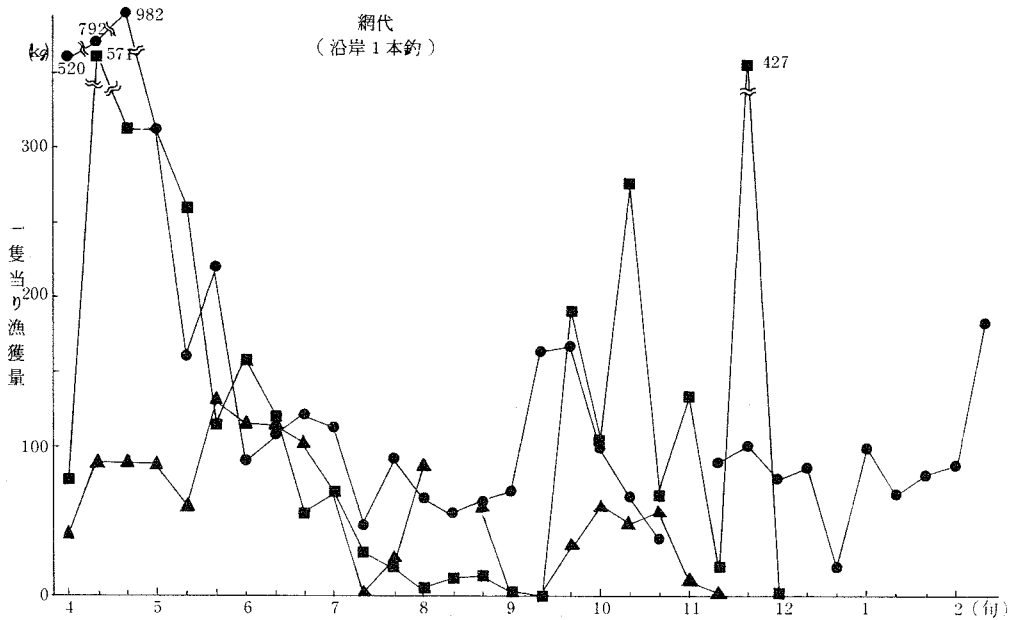


図5 スルメイカ(沿岸)の1隻当り漁獲量経旬変化

注) ●—● 昭和51年
 ■—■ 昭和50年
 ▲—▲ 昭和47年～昭和49年

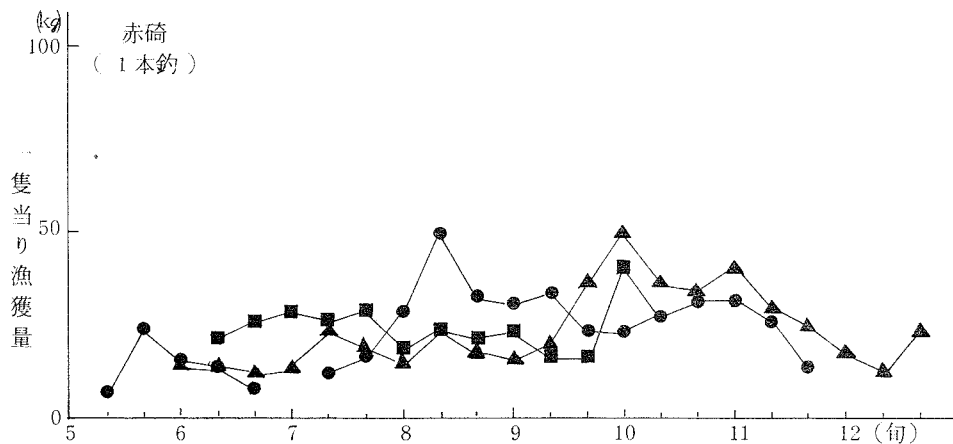
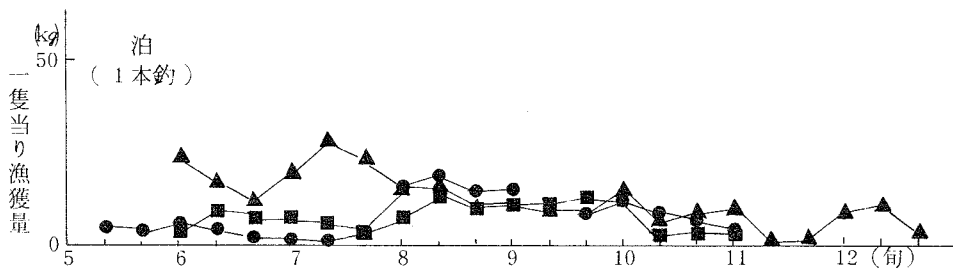


図6 ケンサキ・ブドウイカの1隻当り漁獲量の経旬変化

注) ●—● 昭和51年
 ■—■ 昭和50年
 ▲—▲ 昭和47年～昭和49年の平均

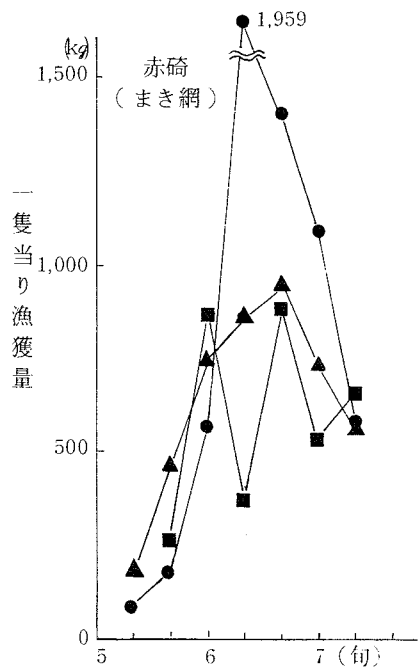
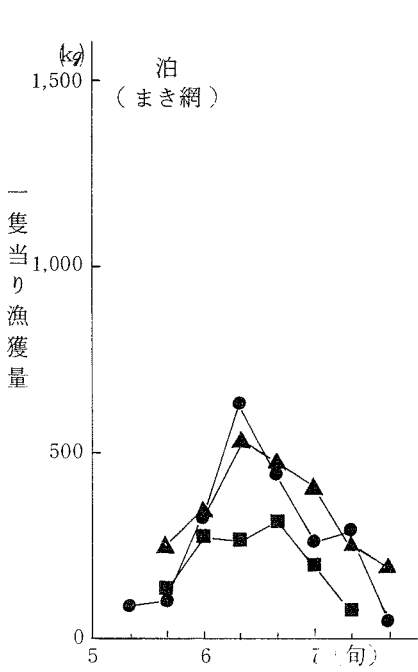


図7 トビウオの1隻当り漁獲量の経旬変化

注) ●—● 昭和51年
 ■—■ 昭和50年
 ▲—▲ 昭和47年～昭和49年の平均

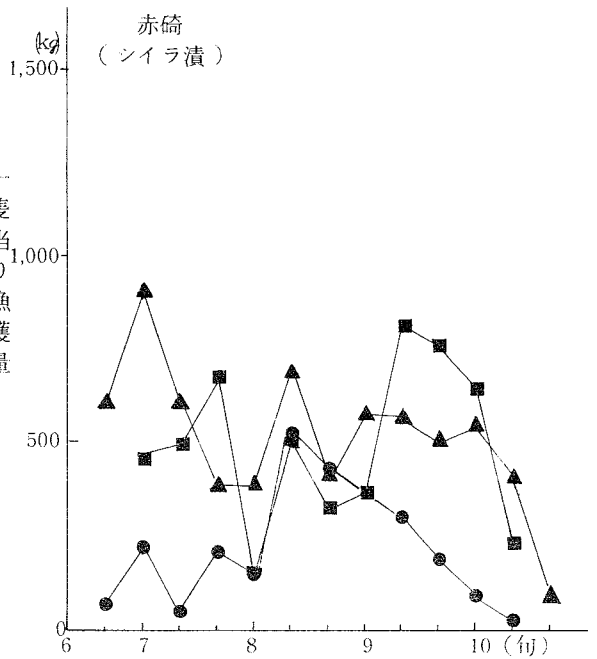
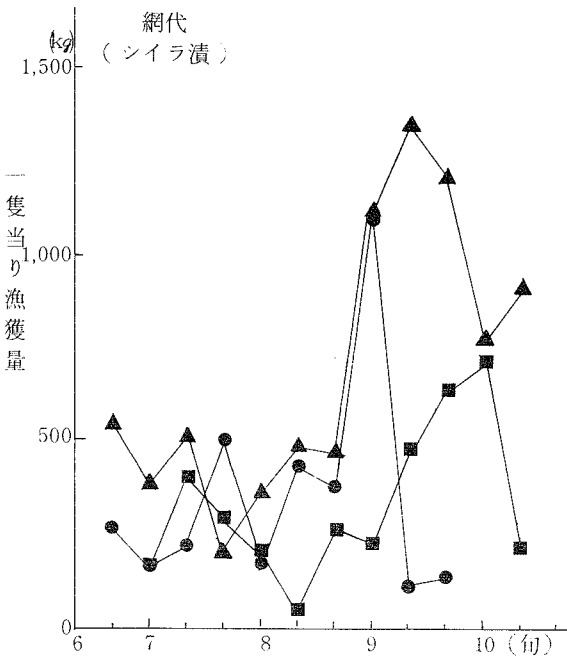


図8 シイラの1隻当り漁獲量の経旬変化

注) ●—● 昭和51年
 ■—■ 昭和50年
 ▲—▲ 昭和47年～昭和49年の平均

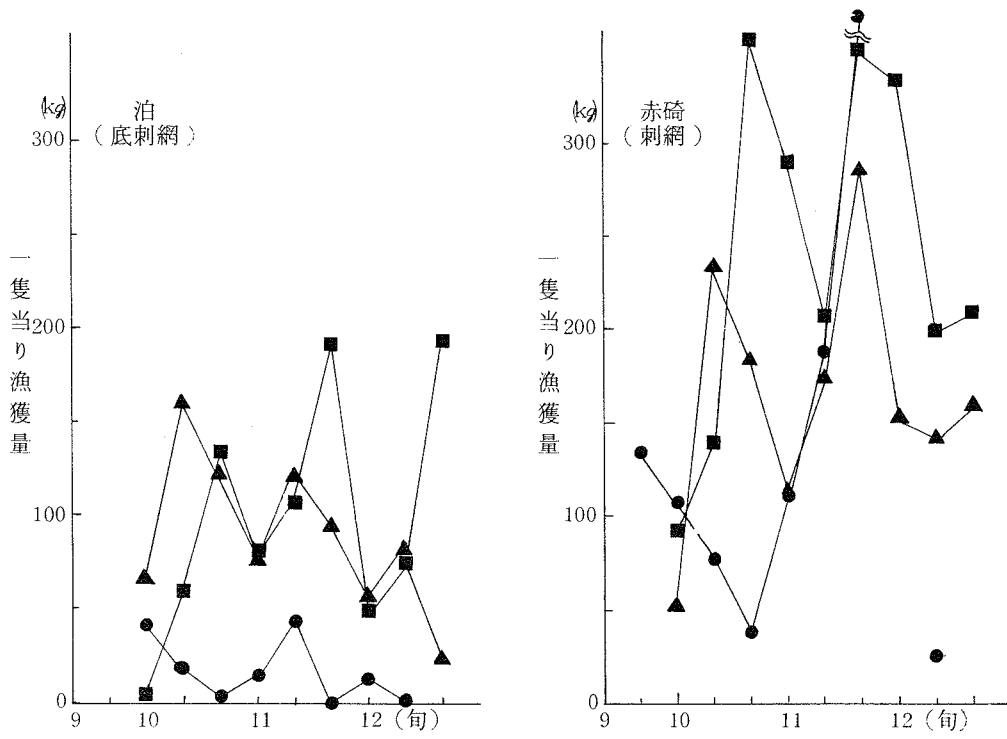


図9 ハマチの1隻当り漁獲量の経旬変化

注) ●—● 昭和51年
 ■—■ 昭和50年
 ▲—▲ 昭和47年~昭和49年の平均
 泊の昭和47年~昭和49年の平均には刺網も含む